

2020年3月期第3四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2020年2月12日（水） 11：00～11：45

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話したことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 電子産業向け装置の事業環境について、業種別に顧客の動向を教えてください。また、受注で第4四半期に期待しているのはどのあたりか。
- A. 海外における不透明な状況は変わっていない。中国においては、半導体投資の一部には延期も出ているほか、今般の新型ウィルスの影響も懸念される。中国のFPD投資については、OLEDへの投資が進捗している模様。韓国については、半導体投資に回復の兆しが見られ、複数の投資案件が進捗している。国内では、受注高・売上高はスローダウンしているが、顧客の投資意欲は未だ旺盛である。
- Q. 新型ウィルスへの対応として、中国の拠点の稼働をどのように決定しているか。
- A. 春節後は、中国地方政府の指示に従いながら対応していく。今期の業績への影響については、情報を収集し精査しているところであり、業績予想には織り込んでいない。
- Q. 水処理薬品事業の原価率改善の要因は、オーガニックな部分だけに限ればどのようなものか。
- A. 海外における現地通貨ベースでの増収、採算性の低い商品の削減や、国内における値上げの進捗による。今後も値上げの努力は継続するが、総合ソリューション展開の効果も期待する。
- Q. ペンタゴン社の事業はそもそも米国内のみか。また、クリテックサービスの技術との違いや両社合わせた市場シェアについて教えてください。
- A. ペンタゴン社は主に北米で精密洗浄の事業を展開している。クリテックサービスが使用中の半導体製造装置の治具を洗浄するのに対して、ペンタゴン社の方は、それに加えて、半導体製造装置の新規納入時の洗浄に強みがある。シェアについては、正確な統計データがない。
- Q. ペンタゴン社の技術をクリテックサービスが国内やアジアで展開する可能性はあるか。
- A. 今のところ具体的な予定はないが、国内で活かしていく可能性はある。
- Q. ペンタゴン社の収益性の水準と2019年の売上高を教えてください。
- A. 収益性については、2桁の事業利益率はあると考えていただければと思う。2019年の売上高のデータはまだないが、ここ数年は増収傾向である。

- Q. フラクタ社のニュースがないが、現在の状況を教えてほしい。
- A. 第3四半期累計で、受注高・売上高については数億円の規模があり、収益性については若干の赤字。フラクタ社については、同社の持つAI/MLの技術を当社の事業に活かす目的で買収しているので、次年度は当社の組織体制も変えてデジタル技術・IT・IoTの強化を進めていく。
- Q. 縦割り組織を解消し総合ソリューションを進めていると思うが、足元で顕在化している効果について教えてほしい。
- A. 総合ソリューションについては、まずモデルをつくり、それを展開していく計画だが、すでに7件のモデルに着手している。業績インパクトについてはまだ申し上げるほどの規模はないが、来期は収益貢献を期待している。
- Q. 研究開発拠点の新設にかかる費用について、金庫株の売却の可能性はあるか。
- A. その考えはない。
- Q. 土地の売却はいつになる予定か。
- A. 現在交渉中だが、今期中に売却の契約成立の可能性はある。その場合、今期に売却損を計上する可能性もある。規模については確かなことは言えない。
- Q. 前期のアルミナ事業売却の影響はどのくらいあるか。
- A. 前期に事業譲渡損として28億円を計上している。今期の減収影響は12億円、利益影響はゼロ。
- Q. 水処理薬品事業の第3四半期（10-12月）が減益となった理由は何か。
- A. 国内外で減収となったことと新規連結子会社が振るわなかったことによる。
- Q. 近年上昇傾向にある販管費率について、来期はどのくらいの目線を持つべきか。
- A. 基本的には今期並みと考えていいと思う。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。